

2 0 1 9 年度
(平成 3 1 年度)

学校教育指導の重点

福島市教育委員会

ま え が き

新元号となる次年度は、今年度に引き続き「子どもの育ちを総合的・連続的にとらえ、『生きる力』をはぐくむ学校教育の推進」を学校教育の努力目標に掲げ、「子どもの育ちを支える環境づくりの推進」を土台としながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成のために各種事業を推進してまいります。

各校・園においても、「幼稚園・保育所、小学校、中学校の連携を基盤とした教育の推進」を一層強化し、生活習慣の形成、学力向上、生徒指導、体力・運動能力の向上等に実効ある取組の推進をお願いします。特に、幼稚園・小学校においては、平成31年1月に発行の「福島市接続期カリキュラム『つなぐ』」を、アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラム作成の参考に活用願います。

新教育要領2年目となる幼稚園においては、幼児の自発的な遊びを通じた指導を中心として、「生きる力」の基礎となる3つの資質・能力を一体的に育むことが求められています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮しながら、期のねらいと実態に応じた活動を精選し、体験の質を重視して、幼児自身の内面の成長を促す指導・援助に努められますようお願いいたします。

新学習指導要領の移行措置2年目を迎える小・中学校においては、新学習指導要領の趣旨を生かした取組を充実させなければなりません。

学習指導においては、教育活動の根本である日々の授業の質を上げるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指し、経験だけに頼った教師主導の指導からの脱却が必要となっています。また、小学校3・4年の外国語活動や中学校道徳科など新たな教科・領域の指導や、ICT機器等を効果的に活用した学習活動の指導についても積極的に取り組む必要があり、授業の基礎・基本としての不易の教師文化の共有を含めて、校内研修の活性化を期待しているところです。

また、本市の喫緊の課題である不登校をはじめ、認知の難しいいじめへの対応、情報モラル不足を起因とした生徒指導事案の増加など、生徒指導面においても適切な対応が求められています。各校においては、管理職のリーダーシップにより学校の組織力を生かして事案に対処するとともに、生徒指導の機能を生かして「互いに高め合う温かな学級・学習集団づくり」が推進されるよう教員の指導力向上を図り、引き続き児童生徒へのきめ細かな対応をお願いします。

さらに、本市学校教育において、特別支援教育の重要さは近年とみに増しています。特に、本市では通級学級入級の児童生徒が増加しており、通級による指導効果を通常学級において波及させることが重要となっています。特別支援学校や特別支援学級と同様、通常学級においても特別な配慮を要する児童生徒については、家庭と連携しながら一人ひとりの教育的ニーズに応える具体的な指導・支援の充実が必要となっているところです。

なお、東京2020オリンピック・パラリンピック大会が福島市で行われることから、これを一つの契機として児童生徒の体力・運動能力の向上に生かすとともに、オリンピック・パラリンピック教育への取組も推進願います。

結びに、自校の課題や実態に即して各内容をさらに具体化し、新年度の教育課程の編成、教育活動の改善・充実、そして評価の観点等として、「平成31年度学校教育指導の重点」を有効に活用されることを期待しています。

平成31年2月

福島市教育委員会教育長 本 間 稔

目 次

まえがき

目 次

1 「平成31年度 学校教育指導の重点」全体図	1
2 幼稚園・保育所，小学校，中学校の連携を基盤とした教育の推進	2
3 発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実	3
4 日々の「授業の充実」による確かな学力の確立	4
☆ 各教科「特に重視したい内容・課題」	5
☆ 日々の「授業の充実」を核とした学力向上サイクル	6
5 ICT等の活用により情報活用能力の育成を図る学習活動の充実	7
6 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進	8
7 探究的な学習を通して，よりよく問題を解決する資質や 能力を育てる総合的な学習の時間の充実	9
8 コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を 育成する小学校外国語活動の推進	10
9 よりよい人間関係の形成や社会への参画及び自己実現に資する 特別活動の推進	11
10 自己指導能力の育成を目指す生徒指導の充実	
☆ 積極的な生徒指導の推進と指導体制の充実	12
☆ 不登校解消・いじめ防止等に向けた取組の強化	13
11 自己理解を深め，将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実	14
12 安心と希望を与える心のケアの推進	15
13 一人ひとりの教育的ニーズに応える特別支援教育の充実	16
14 一人ひとりの体力・運動能力の向上を目指した体育・健康に関する 指導の充実	17
15 保健教育・保健管理及び食に関する指導の充実	18
16 指導力の向上と教育課題の解決を目指す教職員研修の充実	19
17 今日的な課題に対応する教育の充実	
◇ 人権教育	20
◇ 防災教育	20
◇ 放射線教育	21
◇ 図書館教育	21
◇ 環境教育	22
◇ 国際理解教育	22
◇ 安全教育	23

平成31年度 学校教育指導の重点

目指す子ども像 ～育てよう未来のだから ふくしまっ子～

幼稚園
・ 明るく元気に遊ぶ子ども

・ 友達と仲良く遊ぶ子ども

小学校
・ 元気にあいさつや返事ができる子ども

・ 話をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができる子ども

・ 相手を思いやり、大切にすること

中学校
・ 自他を大切にし、力を合わせて努力する子ども

・ 夢や志を抱き、粘り強く取り組む子ども

・ 感謝の気持ちを持ち、郷土を大切にすること

福島市教育基本理念

豊かで恵まれた自然、先人が築いた歴史や文化を基盤として、「心ふれあう教育と文化のまちづくり」を推進し、「人間尊重の精神に基づき、広い視野を持ち、生涯を通じて自己の向上」に努めるとともに、「社会の平和と進展に貢献し得る、心身ともに健康な市民の育成」を推進します。

教育委員会基本目標

子ども一人ひとりが、郷土への誇りと自信、将来への「夢」と「志」をもち、東日本大震災と原発事故の影響からの本市の復興と発展を担う人材として健やかにたくましく成長するために、学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任と使命を自覚し、連携を深め、子どもたちの「生きる力」を培い、未来を切り拓く力をはぐくむ教育を推進します。

子どもの育ちを総合的・連続的にとらえ、「生きる力」をはぐくむ学校教育の推進

努力目標

幼稚園・保育所、小学校、中学校の連携を基盤とした教育の推進

健やかな体の育成を目指す 教育活動の推進

確かな学力の育成を目指す 教育活動の推進

- 日々の「授業の充実」による確かな学力の確立
- 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる総合的な学習の時間の充実
- コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する小学校外国語活動の推進
- 一人ひとりの教育的ニーズに応える特別支援教育の充実
- ICT等の活用により情報活用能力の育成を図る学習活動の充実
- 学校と家庭が連携した家庭学習の推進

豊かな心の育成を目指す 教育活動の推進

- 発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実
- よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進
- よりよい人間関係の形成や社会への参画及び自己実現に資する特別活動の推進
- 自己指導能力の育成を目指す生徒指導の充実
- 《積極的な生徒指導の推進と指導体制の充実》
- 《不登校解消、いじめ防止等に向けた取組の強化》
- 自己理解を深め、将来の生き方を考えさせるキャリア教育の充実
- 安心と希望を与える心のケアの推進
- 郷土への誇りと愛着を育む教育の推進
- 今日的な課題に対応する教育の充実
- 《人権教育、防災教育、放射線教育、図書館教育、環境教育、国際理解教育、安全教育、オリ・パラ教育、プログラミング教育》

互いに高め合う温かな学級・学習集団づくりの推進

子どもの育ちを支える環境づくりの推進

- 指導力の向上と教育課題の解決を目指す教職員研修の充実
- 園・学校運営の充実と活性化を図る学校評価の推進
- 部活動各種大会参加等の支援
- 豊かな教育活動を促す園・学校環境の整備・充実
- 教職員が自ら学び、児童生徒と向き合う時間を確保するための教職員の多忙化の解消
- 地域の人材等を活用した土曜授業の推進
- 保護者負担軽減と私学振興への支援

幼稚園・保育所，小学校，中学校の連携を基盤とした教育の推進

4つのアクション

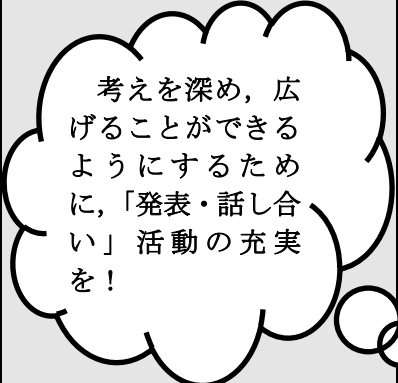
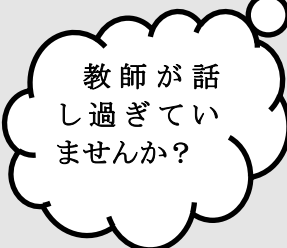
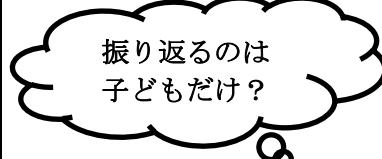
- 1 各中学校区における目指す子どもの姿の共有化と具現化
- 2 保育・学習指導や生徒指導上の課題解決に向けての協同実践
- 3 豊かな人間関係を育む幼児児童生徒の交流活動の積極的な推進
- 4 家庭や地域の教育力を活用した実効ある連携の工夫

指導の重点	努力・実践事項
1 幼・保・小・中学校の学びのつながりを重視した学力の向上 校区の「重点実践事項」及び「達成指標」を設定しましょう。	① 幼・保・小・中学校における子どもの発達特性、指導目標・内容の系統性等について理解を深め、実効ある学力向上策を推進する。 ○ 知的的好奇心など学びの基礎を培う幼稚園・保育所，学力向上を図る小・中学校それぞれの役割の理解と着実な実践 ○ 学びの接続と一貫性を意識した教育課程の編成 ○ 授業参観，授業研究による相互の指導内容・指導方法・学び方，子どもの見取り等の理解と実践交流の積極的な推進 ② 学習習慣を確立し，学ぶ意欲を高めるために，家庭学習の仕方について指導し，家庭との連携を推進する。 ○ 「家庭学習のスタンダード（福島市版）」の積極的な活用 ○ 中学校区における幼・保・小・中学校及び保護者との共通理解による「家庭学習の手引き」等の改善と実践 ③ 「小1プロブレム」「中1ギャップ」の解消に向けた取組を強化する。 ○ 幼稚園・保育所と小学校，小学校と中学校の接続期の連携の充実 ○ 小学校入門期のスタートカリキュラムの実施 ○ 保育所・幼稚園年長後期のアプローチカリキュラムの実施 ○ 小規模学校における小・小連携の充実
2 生徒指導上の課題を解決し，温かな人間関係を育む連携の推進	① 「小1プロブレム」「中1ギャップ」の視点から，いじめ，不登校や問題行動等の未然防止及び課題解決に向けて連携を工夫する。 ○ 発達の段階や一人ひとりの実態に応じた適切なかかわり方の共通理解 ○ 小・中学校合同の生徒指導協議会等による積極的な情報交換 ○ SNS及びネット上のトラブルの未然防止，情報モラルの指導の充実 ○ ねらいを明確にした多様な幼児児童生徒の交流活動の推進 ② 互いに高め合う温かな学級・集団づくりを工夫する。 ○ 互いの話を聞き合い，認め合う集団づくり ○ 規範意識や正義感を育て生かす自律的な集団づくり ○ 小・中学校における諸調査等の効果的な活用
3 成長の時期を捉えた体力・運動能力の向上と生活習慣の形成	① 体力の向上や肥満の防止など幼・保・小・中学校の健康課題を解決する取組を充実させる。 ○ 地域学校保健委員会の活性化 ○ 発達段階に応じた運動能力や体力の向上をねらいとした取組の共通理解と実践 ② 家庭・地域との連携により基本的生活習慣の形成を図る。 ○ 早寝・早起き・朝ごはんなどの生活リズムの確立
4 子どもの健全な成長を支える家庭・地域の基盤づくり	① 家庭や地域全体で教育環境を整える取組を実践する。 ○ 情報通信機器の使用に関し，家庭責任の明確化と家庭と連携した使用ルール，生活習慣の定着促進 ○ 地域の特色あるキャッチフレーズ等による啓発の工夫 ○ 地域社会における様々な交流活動の工夫 ○ 学校支援地域本部事業の学校支援ボランティアなどの地域人材等，地域の教育力の積極的な活用 ② 地域全体で子どもを育て安全を見守る体制づくりを推進する。 ○ 地域で子どもの安全を見守る団体（地域見守り隊等）との連携

発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園教育の充実

指導の重点	努 力 ・ 実 践 事 項
1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼稚園教育において育みたい資質・能力を一体的に育む教育課程の編成・実施・評価 遊びを通して総合的に育んでいますか？	① 幼稚園教育において育みたい資質・能力を踏まえた教育目標を設定し、自園の課題解決の方向性と手立てを明確にして教育課程を編成する。 ○ 一体的に教育活動が展開されるような全体的な計画の作成 ○ 幼児の心身の発達と園や地域の実態に即した創意工夫 ② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体的な姿で捉えるとともに、前年度の評価を生かして、長期・短期の指導計画を作成する。 ○ 期のねらいと実態に応じた活動の精選と連続性を重視した計画（幼児自身の内面の成長につながる体験の質を重視） ○ 小学校以降の生活や学習基盤の育成につながる「アプローチカリキュラム」の作成（福島市接続期カリキュラム「つなぐ」の活用） ③ 特に支援を要する幼児の「個別の指導計画」等を長期的な視点で作成し、その活用に努める。 ○ 幼児の障がいの状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫 ○ 職員間や関係機関との連携と共有
2 幼児の発達に必要とされる豊かな体験が得られる援助や環境の構成の工夫 段階的なねらいと達成に向けた手立てを明確にしましょう。	① 幼児理解に努め、発達課題や幼児の実態に応じ、一人ひとりの発達に必要な体験が得られるような適切な援助や環境の構成を工夫する。 ○ 心を動かされる多様な直接体験の積み重ね ○ 言葉による伝え合いを促す適切な援助 ○ 体力向上プログラムの継続的な実施と活動の工夫・充実 ② 一つ一つの体験が相互に結びつく教育活動の充実に努める。 ○ 自ら身近な環境にかかわり、友達と共通の目的に向かう充実感を味わうことができるような活動の工夫 ○ 幼児が見通しをもてる遊びや活動の展開と、試行錯誤や振り返りを重視した指導・援助の工夫 ○ 互いの教育に対する理解を深める小学校との交流活動や合同研修会の推進 ③ 全教職員の協力体制のもと、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。 ○ それぞれの教師のよさを生かしたチーム保育の充実 ○ P D C Aサイクルを生かした園内研修の充実
3 保護者との信頼関係や生活の連続性を踏まえた家庭との連携の工夫	① 保護者への幼児教育の理解の推進と協力体制づくりに努める。 ○ 保護者との連携による望ましい生活習慣や食習慣の形成 ○ 保護者の保育参加や懇談会等による幼児の発達の姿の共有 ② 家庭や地域との連携を基盤に、幼児のよりよい発達を助長する。 ○ 自然、人材、行事など、地域の資源の積極的な活用 ○ 幼児教育のセンター的な役割の充実

日々の「授業の充実」による確かな学力の確立

指導の重点	努 力 ・ 実 践 事 項
1 言語活動の充実による思考力、判断力、表現力等をはぐくむための単元構想の工夫	① 単元で身に付けさせたい力は何かを明確にして、単元を構想する。 ○ 教科の「見方・考え方」を働かせ、資質・能力の育成を意識した 深い教材研究 ② 指導計画や単元構成の中で、授業のねらいに迫るために必要で効果的な言語活動を選択・設定する。
2 「授業の充実」のための授業展開の工夫  	① <めあて・課題> 教師の「教えたこと」を児童生徒の「学びたいこと」に変える工夫をして学習課題を設定する。 ○ 知りたい、やりたい という意欲や知的好奇心を引き出す課題 ○ 何を学習するのか、何ができればよいのか を明確にした課題 ② <自力解決> 児童生徒が解決に向かうための教師の働きかけを工夫する。 ○ 解決の見通し（ 結果の見通しと方法の見通し ）の提示や説明 ○ 机間指導 による一人ひとりの思考の見取りと個に応じた温かな指導・支援 ③ <発表・話し合い> 思考を共有したり、吟味したりするための発問や教師の働きかけを工夫する。 ○ 何のために話し合うのか、 話し合いの目的 の明確化 ○ 児童生徒の思考をつなぐ 教師のコーディネート ○ 意見や考えの可視化によるアウトプット場面の充実 ④ <まとめ・適用> 本時の目標、学習課題（めあて）、児童生徒の学習活動との整合性のあるまとめをする。 ○ 何を学習したか 、子どもの言葉を生かしたまとめ ○ めあてからまとめまで問題解決の流れが分かる構造的な板書 ○ 本時の学習内容の定着を図る 適用問題 等の確実な実施 ⑤ <振り返り> 児童生徒に学んで得た力を自覚させる教師の働きかけを工夫する。 ○ どのように学習してきたか 、学習の足跡が見えるノートづくり ○ 児童生徒の学びや変容を価値付ける教師の言葉かけ
3 生徒指導の機能を生かした授業の充実	① 一人ひとりの児童生徒にとって「わかる・できる授業」を展開する。 ○ 自ら考え、判断して、 自己決定 する場の設定 ○ 学習の過程や結果を見取り、 自己存在感 をもたせる教師の役割 ② 共に学ぶよさが実感できる働きかけを工夫する。 ○ 共感的に理解 し合える学習集団づくり ○ 児童生徒同士がつながる場の意図的な設定
4 一人ひとりを生かす指導と評価の一体化の工夫 	① 何を（観点ごとの評価規準）、どの場面で、どんな方法で評価するのかを明確にする。 ○ 座席表等を活用した見取りの工夫 ② 個に応じた指導が充実するよう評価方法を工夫する。 ○ 観察、ノート・作品による評価、自己評価・相互評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価、ペーパーテスト等

<教師が授業を振り返るポイント>

① 子どもにとって楽しく、やりがいのある授業だったか

② どの子どもにも、わかった、できたという実感をもたせられたか

③ どの子どもにも、温かい声や手をかけることができたか

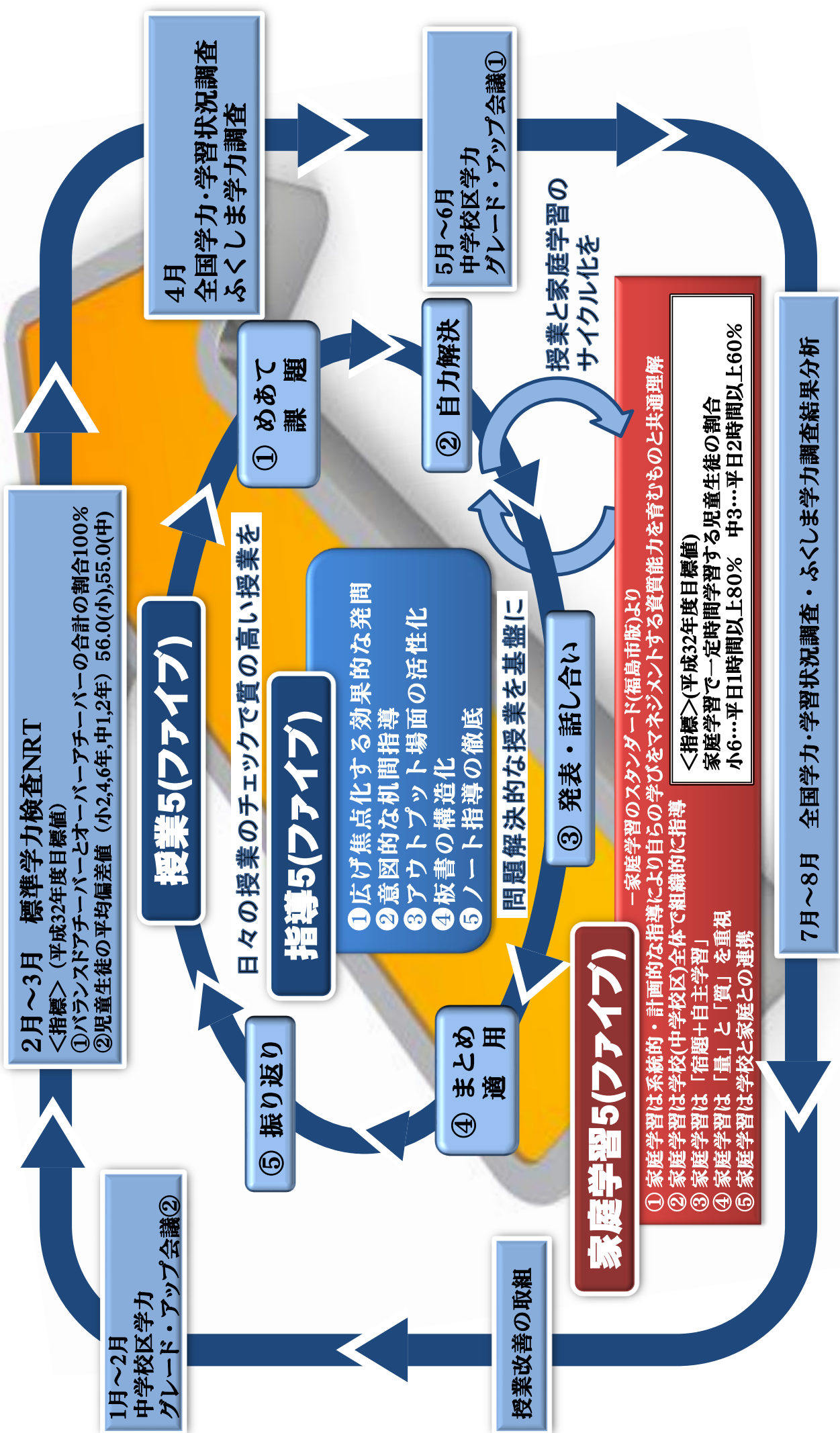
教科名	特に重視したい内容・課題
国語	○ 言葉による見方・考え方を働かせ、言葉の意味、働き、使い方等に注目して自分の思いや考えをもち、広げ、深める学習活動の充実 ○ 確かな教材研究に基づき、適切な言語活動を通して「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の言語の能力を確実に育成する指導の充実
社会	○ 公民としての資質・能力の基礎を育成するための、社会的な見方・考え方を働かせることができる教材、資料、問いの開発と精選 ○ 社会生活の意味を追究するための、主体的に学習問題や学習課題を見いだすことができる導入の工夫及び問題解決的な話し合い活動の充実
算数 数学	○ 日常生活や社会の事象や数学の事象から算数・数学の問題を見だし、自立的、協働的に解決する数学的活動の充実 ○ 基礎・基本の確実な定着のための学習課題とまとめの整合、適用の時間及び効果的な振り返りの活動の充実
理科	○ 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえ、知識及び技能の定着を図るとともに、日常生活や他教科との関連を図り、理科の学びに向かう力を涵養する指導計画の工夫 ○ 予想や仮説、観察、実験の計画のための言語活動、または、結果の分析、考察や再実験のための言語活動を充実させることによる「思考力・判断力・表現力」の育成
生活	○ 児童の発達の段階や特性を踏まえ、2学年間を見通した児童の思いや願いに柔軟に対応できる指導計画の工夫 ○ 学習の対象を自分との関わりで捉え、「試す・見通す・工夫する」などを通して新たな気づきを生み出すことや、伝え合い表現する学習活動を行うことで学びを振り返り、自分自身への気づきの質を高める指導の充実
音楽	○ 音や音楽を「音楽を形づくっている要素」とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情などを関連付けて考える学習活動の充実 ○ 「共通事項」を要として、各領域や分野の関連を効果的に図る題材構成とその配列の工夫
図画工作 美術	○ 表現活動と鑑賞活動との関連を図り、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する学習活動の充実 ○ 創造的に発想や構想をしたり、つくったり表したりすることができる魅力ある題材の設定
体育 保健体育	○ 体育や保健の見方・考え方を働かせ、自他の課題を見付け、その解決に向けて問題解決的な活動を充実させる指導の工夫 ○ 児童生徒の体力向上を図るための「《改訂》運動身体づくりプログラム」の自校化や発達の段階に応じた補強・補助運動の計画的な実践
家庭 技術・家庭	○ 児童生徒の生活の自立を目指し、小学校2年間及び中学校3年間を見通した指導計画及び題材設定の工夫 ○ 自ら生活の課題を見だし、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造する資質・能力を育む実践的・体験的な学習活動の推進
外国語 (中学校)	○ 学習した語彙や表現等を活用し、「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動の充実 ○ 小学校における学習との接続を重視するとともに、授業を英語で行い、授業全体を「実際のコミュニケーションの場面」とする指導の実践
道徳	○ 読み物資料の心情理解に留まらず、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自分との関わりで多面的・多角的に考えを深める指導の工夫 ○ 学習指導要領解説に示される「内容項目の指導の観点」を捉え、児童生徒の実態把握、教材検討に基づく発問の吟味

日々の「授業の充実」を核とした学力向上サイクル

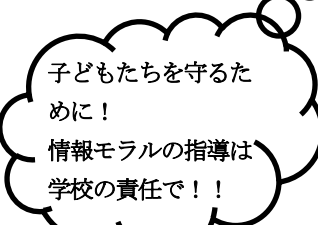
～授業の基礎・基本に立ち返る～

2つのPDCAサイクルを回す

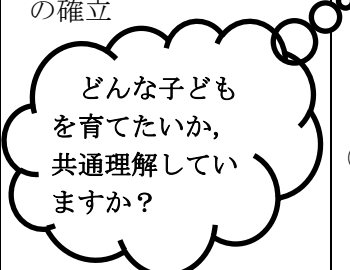
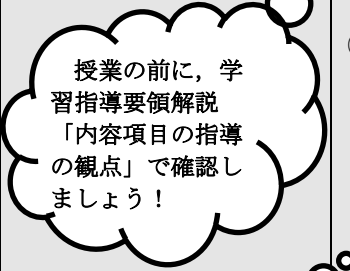
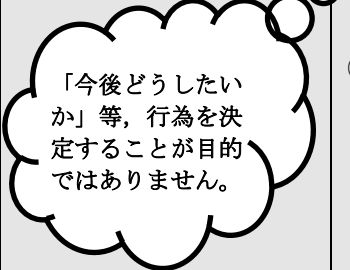
- ① 全国学力・学習状況調査等の諸調査の結果を分析し、課題を把握し、改善策を立案し、実行するサイクル。
- ② 日々の授業において、日常的に実施する指導改善のサイクル。



ICT等の活用により情報活用能力の育成を図る学習活動の充実

指導の重点	努 力 ・ 実 践 事 項
1 各教科等の特質に応じた情報活用能力の育成  ICT(Information and Communication Technology)は「情報通信技術」の略です。	① 情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図る。 ア 児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を確実に身に付けさせる。 ○ キーボードなどによる文字の入力 ○ 電子ファイルの保存・整理 ○ インターネット上の情報の閲覧 ○ 電子的な情報の送受信や共有等 イ 生徒が学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力を育む。 ② 各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材教具の適切な活用を図る。 ③ 学習指導要領完全実施を見据え、小学校においてはカリキュラム・マネジメントにより、各教科等の特質に応じて、プログラミング学習への準備に努める。 例 算数：図形の作成におけるプログラミング的思考 理科：電気製品に活用されているプログラミング 総合：自分の暮らしとプログラミングとの関係
2 ICT機器活用における情報モラル教育の一層の充実  子どもたちを守るために！ 情報モラルの指導は学校の責任で！！	① 各教科等の目標と情報モラル教育の目標を明確にし、学校の教育活動全体を通して、適切に情報モラルを身に付けるための学習活動を教育課程に位置付ける。 ○ 情報社会の倫理：情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度。 ○ 法の理解と遵守：情報社会におけるルールやマナー、法律があることを理解し、それらを守ろうとする態度。 ○ 公共的なネットワーク社会の構築：情報社会の一員として公共的な意識をもち、適切な判断や行動を取る態度。 ○ 安全への知恵：情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度。 ○ 情報セキュリティ：生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識。 ② 保護者への啓発活動と、保護者や校種間、及び関係機関との十分な連携を図れるような指導体制を確立する。 ○ 家庭におけるスマートフォンやSNS、インターネット等利用のルールづくりやフィルタリング利用の啓発
3 教育の情報化に対応するための指導体制の確立	① 学校教育全体において情報教育を推進するため、校内の指導体制を確立するとともに、ICT機器を授業に効果的に活用する。 ② ICT機器の効果的な活用及び管理についての校内体制の確立を図るとともに、講習会等への積極的な参加を推進する。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳教育の推進

指導の重点	努力・実践事項
1 道徳性・規範意識の芽生えを培う教育の推進（幼）	① 教師との温かな信頼関係を基に、自己発揮しながら友達と遊ぶ中で、言葉による伝え合いを重視するとともに、思いやりやきまりの大切さに気付けるような援助の工夫に努める。 ② 幼稚園における遊びを通じた葛藤の体験や課題解決の場面における気付きを促す指導を充実し、そのよさを小学校低学年でも取り入れられるよう、幼小接続の推進に一層取り組む。 ③ 教師間の共通理解や家庭との同歩調による連携を工夫し、一人ひとりの発達の特長や心の動きに応じたきめ細かな指導に努める。
2 児童生徒、学校、地域の実態を踏まえた全体計画の改善と推進体制の確立 	① 校長が明確な方針を示し、道徳教育推進教師を中心とした全教師の協力体制の下、道徳性の育成にかかわる自校の課題及び解決の手立てを明確にし、指導に生かす。 ○ 児童生徒や学校の実態に応じた指導内容の重点化 ○ 内面に根ざした道徳性の育成を図る豊かな体験活動の構想 ○ 「生命を尊重する心」、「他者を思いやる心」等を重点とした系統的・発展的な内容の構成 ○ いじめ防止の視点に立った系統的・発展的な指導の工夫 ② 「道徳科」の趣旨を踏まえた全体計画及び別葉への改善を図る。 ○ 各教科等で行う道徳教育との関連を明確にした計画的・発展的な指導 ○ 教科書を主たる教材とし、各校の指導の重点に応じた「わたしたちの道徳（Web 版）」「ふくしま道徳教育資料集」「文部科学省資料」など
3 道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、考えを深める道徳科の授業の充実  	① 児童生徒に考えさせたいことを明確にする。【本時のねらいの検討】 ○ 明確な指導の意図に基づいた授業構想 ・ 教師による道徳的価値の理解（ねらいや指導内容の捉え） ・ 児童生徒の実態把握（これまでの学習状況や実態） ・ 教材の検討（教材の特質、特質を生かす具体的な活用方法） ② ねらいを踏まえ、 道徳科の特質（「多面的・多角的に考える」「自己を見つめる」）に根ざした学習を展開する。【指導方法の工夫】 ○ 問題意識を高める導入の工夫 ○ 主体的に「多面的・多角的に考える」「自己を見つめる」ことができる発問の吟味と、学習活動の検討 ※ 参考：質の高い多様な指導方法について「自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」（H28.7 道徳教育に係る評価等の在り方会議報告） ○ 思考ツールの活用や書く活動を設定するなど、児童生徒一人ひとりが自分の考えや立場を明確にする学習活動の工夫 ③ 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。【評価】 ○ 「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」という視点を重視した見取り ○ 授業中の発言や記述等による 1 時間ごとの学習状況の把握と累積 ○ 道徳ノートやワークシートの記述を学期、年間など一定の期間を通じて見取る個人内の成長の評価（成長を積極的に受け止め励ます評価）
4 家庭や地域等の協力の下での道徳教育の推進	① 教師も児童生徒と共に学ぶ姿勢に立ち、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図り、道徳実践の場と機会の拡充を図る。 ○ 道徳教育における地域の人々の参加、協力の推進 ○ 様々な体験活動や交流体験の充実 ○ 保護者等への授業公開の積極的な実施

探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる総合的な学習の時間の充実

指導の重点	努 力 ・ 実 践 事 項
1 地域や自校の特色を生かした全体計画、年間指導計画の改善・充実 振り返りを通して、新たな課題へ	① 探究的な学習の過程を一層重視し、地域や自校の実態を考慮しながら、全体計画を見直す。 ○ 目標 育てようとする資質や能力及び態度の明確化，内容（何を学ぶか、探究的な学習を通して何ができるようになるのか）についての再検討 ○ 地域や学校の特色に応じた課題・内容（町づくり，伝統文化，地域経済，防災など）を考慮 ② 年間指導計画・単元計画の単元配列・時数配当を見直す。 ○ 全教育活動との関連性，学年・校種間との連続性や発展性 ○ 「探究の過程の連続」を重視したまとまりのある単元配列 課題の設定 ↓ 情報の収集 ↓ 整理・分析 ↓ まとめ・表現 ↓ 新たな課題の設定 ⋮ ※ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が発展的に繰り返される ○ 子どもの学びに応じた授業時間の弾力的な運用
2 問題の解決や探究活動に主体的・創造的・協働的に取り組む態度を育てる学習活動の充実 4つの探究のプロセスを確実に	① 探究の過程を重視する。 〈課題の設定〉 児童生徒が自ら課題意識をもつような，学習対象との意図的な関わり方や出会わせ方の工夫 〈情報の収集〉 観察，実験，見学，調査，探索，追体験など，課題解決に必要な情報を収集する活動の位置付け 〈整理・分析〉 収集した情報を整理したり，分析したりして思考する学習活動の位置付け 〈まとめ・表現〉 気付きや発見，自分の考えをまとめ，判断し，各教科等で身に付けた表現方法を活用する場の設定 ② 他者と協働して取り組む学習活動を展開する。 ○ 多様な情報の活用（共通点や相違点，関連性を発見する話し合い） ○ 異なる視点からの考え（収集した情報の比較，分類，関連付け） ○ 力を合わせることや交流（グループ，異年齢，地域の人，専門家） ○ 個性や主体的な個の学びのよさも重視（個と集団の学習のバランス） ③ 言語により分析し、まとめたり表現したりする活動（考える技法の活用）を展開する。 ④ ICT等を活用して情報を収集・整理・発信する学習活動を展開する。
3 学習評価の充実と学習指導・指導計画の評価の推進	① 育てたい資質・能力を明確にして評価項目を見直す。 ② 児童生徒の学習状況を的確に捉え，評価方法に工夫改善を加える。 ○ 教師間で評価の観点や評価規準を確認してから学習状況を評価するなど，どの教師も同じように判断できる信頼される評価 ○ 多様な評価方法（表現，観察，制作物，ポートフォリオを活用した評価）や評価者による評価（児童の自己評価・相互評価，教師や地域の人々等による他者評価）を適切に組み合わせた多面的な評価 ○ 学習活動前に実態を把握したり，学習活動中または終末に学習状況を把握・改善したりするなど，授業の事前や途中，終末に適切に位置付けて実施する評価 ③ 子どもの姿や成長から，学習内容・活動を振り返って，指導方法や指導計画の改善を図る。